

石川忠久 監修

漢詩創作

のための

詩語集

大修館書店

監
修

石川忠久
(岳堂)

編集
委員

市川清史
(愚山)

後藤淳一
(泥龜庵)

中嶋 愛
(雪鴻)

日原 傳
(蝸庵)

堀口育男
(甘溪)

水出和明
(樂山水)

棟方 徳
(不孤庵)

序 文

漢詩を作ろうという時、昔の詩を読んで先人が工夫を凝らした詩語に触れ、字の働きや語感を理解しながら語彙を増やしていくのに如くはないが、そのかたわら、よい詩語集を手元に置いて、気軽にたくさん詩語を引きくらべ見くらべながら作詩を続けていくのも上達への一つの道である。そのような思いから、ここに漢詩を作る人のための詩語集をお届けすることとなった。本書ならではの特長を並べてみよう。

幅広い分野・性格の詩語を多数収録

延べ二万五千余の詩語、それも従来のような歳時に関連する語だけでなく、情景や人事にかかわる語、形容語や虚辞、地名・人名など、非常に幅広い分野・性格の詩語を収録した。生老病死や冠婚葬祭に関する語もあれば、飲食・住居・家族など

日常生活に関連する語、国家・経済に関する語、天変地異・天体・神話に係る語、疑問・反語の表現に用いる語、世界の各都市を表す語など、誠に多種多様である。これによって特に初心者の方々は、詠みたい題材の詩語がわからないという事態が解消され、創作する漢詩の世界が大きく拡張されることとなる。

日本や現代の事物に関連する詩語も数多く収録

日本漢詩からも多くの詩語を採用しており、日本の地名・人名や日本ならではの詩語（例えば海に関するものなど）が豊富に掲載されているのも大きな特色である。その中には、飛行機・鉄道・クリスマスといった現代的な題材の語もあり、現代の日本を詠ずる際に非常に参考になるであろう。

詳細な分類のもと、類義・同義の詩語をまとめて掲載

例えば雨に関して「情景」部では「雨天全般」「長雨・大雨」「小雨」「冷雨」「時

間による雨」「好ましい雨」「その他の雨」「雨の形容」「雨音」「風雨」と詳細に分類し、それぞれに関連する詩語を掲載した。また「歳時」部の「ホトトギス」という分類では、「子規」「蜀魂」「杜鵑」「杜宇」「謝豹」「蜀鳥」：のように同義の語をまとめて並べている。千二百余に及ぶ分類によつて多数の類義・同義の詩語を掲載したことで、詠みたい題材・心情により適した詩語に出会うことができ、詩の表現も深まつていくことだろう。

平仄・読み・語義・韻目も記載

全ての詩語に平仄ひょうそく・読み・語義の情報を記し、末尾の字が平声である詩語には韻目も記した。これまで漢和辞典などで時間をかけて調べていた方々も平仄や押韻への配慮が大変簡便になり、詩語の検討がしやすくなるはずである。また、読みや語義まで確認できるため、一つ一つの詩語を適切に理解して用いることができるだろう。

検索に便利な「分類一覧」と五つの索引

意味の分類から詩語を探せる「分類一覧」に加え、詩語（末尾の字が平声）の韻目から引ける「韻目索引」、詩語の読みから引ける「五十音索引」、対句を設ける際に役立つ「双声索引」「疊韻索引」「重言索引」を掲載した。

作詩に役立つ充実した付録

「作詩指南」として、和習・異称・故事・詩題について具体的な例を示しながら解説をおこなった。特に「故事一覧」は百余りの故事を見出しとして立てて説明し、「題詠詩題一覧」では五百二十余の詩題を各月ごとに掲出した。後者は私の主宰する櫻林詩會で出した詩題を中心にまとめたもので、漢詩を独習する方々はもとより、詩會で題詠詩題を考える際にも参考に使っていただけたらと思う。そのほか「引用文献一覧」「七言絶句記入表」も掲載した。

文芸全般、日常の文章にも役立つ詩語集

詩に用いる漢語を集めたものであるので、和歌・俳句・小説などの創作、人や物の名付け、祝辞や時候の挨拶文など、漢詩に限定せず、さまざまに活用していただけるものと思う。

しっかりとした内容で、使い勝手のよい、真に作詩に役立つ詩語集を編むことは念願であった。本書の出版に際しては、長く風雅の楽しみを共にしてきた櫻林詩會の七名が編集委員となって執筆・編集に当たり、大修館書店の皆さんと力を合わせ、尽瘁してくれた。お世話になった方々、また、「次は詩語集を」と待ち望んでくださっていた読者の方々に、深甚の謝意を表する次第である。

二〇二二年五月

東京九段の哲中庵にて

石川 忠久

本書の内容と使い方



[分類] 大・中・小の1〜3段階に分類。

[中分類] (先頭の段に記載)

- [部門] 六つの部門で構成。
- 歳時 季節に関係の深い語
 - 情景 自然や地理に関係する語
 - 人事 人間社会に関係する語
 - 雑 形容語や疑問・反語表現
 - 地名 特定の土地を表す語
 - 人名 特定の人を表す語

[詩語の配列] 歳時・情景・人事・雑の部は、同じ文字数で、かつ、末尾の字の平仄が同じである詩語が並ぶように配列。
地名・人名の部は、意味の近い詩語が並ぶように配列。

[韻目] 末尾の字が平声であるものに記載。

[詩語の読み] 音読みは片仮名、訓読みは平仮名で表記。

複数の読みをまとめて示す場合は () を用いた。

[例] 「ゴウユウ(す)」は、「ゴウユウ」または「ゴウユウす」と読む。

複数の読みを列挙する場合は、「・」や「/」で区切った。

【補足説明】

■ 詩語は、二字または三字のものを中心に、延べ二万五千余を取録。どのような詩語を取録したかは45ページの「引用文献一覧」を参照されたい。

■ 詩語は、新字体(＝当用漢字)字体表が告示されて以降、それまで主に用いられていた字体に代えて、新たに採用された字体。「廣」に対する「広」など)のあるものは新字体で示した。

■ 本書に掲出した詩語の読みは、一つの目安として掲げたもので、すべての読みを網羅するものではない。

■ 曆に関係する語義(重陽の節句など)は、原則として旧曆のそれを意味するが、紙幅の都合でその旨を省略した。漢詩における旧曆・新曆について

[平仄記号]

- 平声
- 仄声
- ◎ 3字・5字の詩語の押韻(平声)
- △ 平声と仄声に両用

詩語がどの段にあるかを示す記号
(索引で用いる)

晨遊	行遊	好遊	夜遊	周遊	再遊	優遊	佳遊	周流	回旋
シニュウ	コウユウ	コウユウ	ヤユウ	シユウユウ	あそぶ	ユウユウ	カユウ	シユウリユウ	カイセン
尤	尤	尤	尤	尤	尤	尤	尤	尤	尤
早朝の散歩	野外を歩き回る	素晴らしい行楽	夜に見物に出かける	あちこち歩き回る	この次に遊ぶ	のんびり歩く	素晴らしい行楽	周遊する	先周遊する
携手行	事遊	復追遊	勝春遊	偶然来	看雲行	月同行	或幽尋	事遊嬉	辜負
えてゆく	ゴウユウ	またツイ	シユンユウ	きたる	てくをみ	つぎとも	あるはず	ユウキ	コフ
奥	尤	尤	尤	仄	奥	奥	優	支	支
手を取り合い行く	行楽ばかりしている	また楽しむ	かつての遊びを	偶然来た	雲を眺めながら歩く	月が旅人についてくる	たまには散策に出る	遊んでばかりいる	行楽の機会を逃す

【詩語の探し方】

検索方法	掲載項目	掲載ページ
意味の分類から探す	分類一覧	巻頭〈12〉〜〈26〉
韻目から探す	韻目索引	巻末3〜76
読みから探す	五十音索引	巻末77〜209
対句に役立つ	双声・索引・疊韻・索引・重言・索引	巻末210〜217
和習をチェックする	和習の例	付録387〜388
動植物を一覧する	動植物の異称	付録390〜391 *詳細は本編の歳時・情景部を参照
故事から探す	故事一覧の詩の欄	付録394〜408
詩題から探す	題詠詩題一覧の関連の欄	付録410〜453

【語義】 読みの違いによって語義に異なりがある場合は「/」で区切った。

ては、409ページの「詩題を整える」を参照されたい。

索引については、各索引の先頭ページにある説明と、巻末218ページの「双声・疊韻・重言の索引の活用際して」を参照されたい。